

安全の手引き

在エストニア日本国大使館

Embassy of Japan in Estonia

3rd floor, Tallinn Business Center, Harju 6, 15069 Tallinn, Estonia

<http://www.ee.emb-japan.go.jp/jp/>

2021年7月改訂

目次

1 序言	2
2 エストニアの治安・犯罪発生状況	2
3 防犯の手引き	3
(1) 防犯の基本的な心構え	3
(2) 具体的な防犯対策	3
(3) 道路交通事情と事故対策	5
(4) テロ・誘拐対策	6
4 緊急事態に備えて	7
(1) 平素の準備と心構え	7
(2) 緊急時の行動	8
(3) 緊急時に備えてのチェックリスト	9
(4) 緊急時のエストニア語	9
5 緊急時の連絡先(電話番号等)	10
6 結語	10

1 序言

エストニアは、フィンランドからバルト海をはさんで南に位置し、九州とほぼ同じ大きさの国土に約132万人が住むバルト三国のひとつです。1991年に旧ソ連邦から独立してから、2004年3月にNATO、同年5月にEUへの加盟を果たし、2010年12月にはOECD加盟、2011年1月からはユーロを導入、2017年後半にはEU議長国を務めるなど着実に欧州の一員としての歩みを進めています。

フィンランドからフェリーで約2時間という好立地と、古い城壁に囲まれ中世の街並みが適度に保存されている世界遺産タリン歴史地区や郊外の豊かな自然を背景に、特に観光シーズンの夏場には欧州諸国及びアジア諸国から多くの観光客がエストニアを訪れます。

本冊子は、エストニアの治安状況をふまえ、旅行者やエストニア在住の日本人の方々が、より安全に生活するための基礎的な防犯情報を提供することを目的に作成したものです。皆様の日々の安全対策の一助になれば幸いです。

2 エストニアの治安・犯罪発生状況

エストニアの治安は比較的安定しており、犯罪認知件数は過去5年間で約20%減少しています。

2020年の犯罪認知件数は過去最少でしたが、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大による入国規制に伴う犯罪ターゲットの減少(外国人渡航者の減少)及び、国内における移動制限(ロックダウンによる外出規制及び飲食店等の営業時間の短縮等)に伴う犯罪機会が減少していることから、純粋に治安が向上しているとは言いがたいのが現状です。犯罪機会が減少している中においても盗難被害は増加し、特に殺人については対前年比50%増となっており犯罪の凶悪化が懸念されます。

エストニアの一般犯罪の傾向として、盗難の発生件数が最も多く、特に観光シーズンである夏期には観光客を狙ったスリや置き引きが多く発生しています。次いで暴行・傷害も多く、泥酔者によるトラブルが酒場や路上で発生しており、殺人や強盗事件に発展するケースが報告されていますので、十分注意する必要があります。併せて薬物犯罪の犯罪認知件数は年々増加傾向にあり、更なる注意が必要です。

当国警察によるとテロ等の脅威レベルは「低い」と評価しておりますが、シェンゲン協定による自由な移動により、テロリストのエストニアへの侵入の可能性は排除できないとされています。

<参考:エストニアの犯罪内訳および件数の推移>

	2015年 (件)	2016年 (件)	2017年 (件)	2018年 (件)	2019年 (件)	2020年 (件)
総数	32,626	29,051	26,984	27,125	27,169	25,817
殺人	50	44	45	43	34	51
暴行・傷害	5,657	4,823	4,710	5,966	6,557	6,023
婦女暴行	161	152	150	212	203	152
盗難	11,354	8,982	7,633	7,403	6,804	6,863
強盗	337	248	201	170	152	113
詐欺	1,063	1,077	911	802	1,045	1,020
薬物犯罪	1,349	1,301	1,520	1,485	1,502	1,330

サイバー犯罪	642	735	781	856	965	1,080
交通事故・違反	4,013	3,736	3,277	3,389	3,460	3,468
その他	8,000	7,953	7,756	6,799	6,447	5,717

(出典:エストニア統計局)

また、エストニアでは、旧ソ連邦構成国であったという歴史的背景から、総人口 132 万人のうち、ロシア国籍を中心とする外国籍住民が約 16 万人を占めている。また、ロシア系を中心とした無国籍者が約 8 万人存在し、政府は国籍取得支援などのロシア系住民の社会統合を目指した政策を実施しています。ロシア系住民による主だった騒乱としては、2007 年 4 月タリン市内において、ソ連兵銅像移転・遺骨改葬に反対するロシア系住民がおこした暴動事件が挙げられます。また、2014 年にはロシアによるクリミア「併合」を契機として EU によるロシアに対する経済制裁が行われ、ロシアと EU・NATO(エストニア等バルト諸国を含む) 諸国との関係は緊張状態にあります。

3 防犯の手引き

(1) 防犯の基本的な心構え

上述のとおり、エストニアの治安は比較的落ち着いていますが、2020 年の刑法犯罪発生率(犯罪発生件数を人口 1 万人あたりに換算した件数)で比較すると、エストニアは日本の 3.4 倍となっており、日本に比べると治安は良いとはいえ、日本人が被害に遭う事案も発生しています。したがって、一人一人が日頃から防犯意識を絶やさないことが大切です。

安全確保の基本は、「目立たない・用心を怠らない・行動を予測されない」の三つと言われています。被害に遭われた方々の大半は、「まさか自分がこんな目に遭うとは思わなかった。」とおっしゃっています。不測の事態に巻き込まれることを避けるためには、危険を事前に予防することこそが最も大切かつ、基本的な危機管理です。現地の社会情勢、慣習および国民性を知るとともに、常に最悪の事態を想定し、日頃から物心両面の準備を行い万全の対策を講じるよう心がけて下さい。

(2) 具体的な防犯対策

犯罪を予防するためには、日頃の注意と工夫が大切です。次の注意事項を一読して確認しておきましょう。また、エストニアはアジア系の住民が少ないため、日常生活において、日本人というだけで目立ってしまうことにも留意しておく必要があります。

タリン市内では、中心部のケスクリン(KESKLINN)、ラスナマエ(LASNAMAE)およびコプリ(KOPLI)地区は犯罪発生件数が多い傾向にあります。地方都市においては、ロシア国境に面しているイダ・ヴィル県、ラトビア国境に面しているヴァルガ県が比較的犯罪発生率が高い地域となっているので特に注意が必要です。

ア 住居に対する注意事項

(ア) 住居の選択は他人任せにせず、周辺の環境や雰囲気も含め十分に調査・検討して決定しましょう。

(イ) 入居の際は、新しい鍵に取り替えることをお勧めします。

(ウ) 敷地の出入口(外門)や建物の出入口に施錠設備があり、住民以外の者が自由に出入りできない構造の物件が良いでしょう。

(エ) 扉の鍵を二重にし、外出の際はもちろん、在宅時も必ず施錠しましょう。

(オ) 警備会社直結の機械警備の活用は抑止効果にもつながります。

(カ) 不意の来訪者がある場合は、ドアを開ける前にインターフォン等で十分に身元を確認しまし

よう。不用意に扉を開けて対応することは厳禁です。

(キ) 建物の内側でオートロックのあるエントランスに自転車を停車していたが盗難にあったケースも報告されています。可能な限り自宅の中に保管するよう心がけましょう。

イ 外出時の注意事項

(ア) 多額の現金は持ち歩かず、貴重品や本人確認証明書はなるべく分散して携帯するようにしましょう。

(イ) リュックサックなど背負うタイプのカバンには貴重品を入れないようにしましょう。貴重品を入れる場合には、リュックは体の前に抱えて持つようにしましょう。

(ウ) ズボンの後ろポケットから財布が明らかに見えるような入れ方は危険です。また、ショルダーバッグの外側のポケットに財布や貴重品を入れないようにしましょう。なお、当国警察によればタリン市内ではフェリー下船時、旧市街観光中及び市電乗車中のスリ被害が多発しているとのこと。

(エ) 空港、フェリーターミナル、駅、バスターミナルの切符売り場などで荷物を不用意に床に置かないようにしましょう。もし床に置く場合は、両足で挟むなど必ず身体の一部に触れるようにしておきましょう。

(オ) レストラン等の飲食店では、貴重品類の入った手荷物を座席に残したまま離席せず、常に携帯するように心掛けましょう。特にホテルの朝食時に、自分の席を確保するためにハンドバッグ等を席に置いておくことは禁物です。上着を椅子の背もたれに掛けておく場合は、財布や貴重品をポケットの中から抜き取って別途管理しましょう。

(カ) 夜間、人通りの少ない道での一人歩きは控えましょう。女性はもちろんのこと、男性であっても、複数の男に取り囲まれ、暴行された上に金品を奪われることがありますので油断は禁物です。当国警察によれば、料金システムを公表している大手タクシー会社の利用を推奨しています。

(キ) 不要なトラブルに巻き込まれないためにも泥酔者や不審者には近づかないようにしましょう。

(ク) 自動車は、短時間であっても必ずドアロックをしましょう。人目に付かない暗い場所に駐車しないこと、また、人目のある場所でも長時間同じ場所に駐車しないことが重要です。駐車中は車内に荷物を置かないようにしましょう。盗難防止装置(アラームやハンドル固定装置)等も活用するようにしましょう。

ウ 生活上の注意事項

(ア) 日頃から近隣の住民と良好な関係を保つようにし、周囲の変化に注意を払いましょう。

(イ) 通勤、通学、買い物等の行動をパターン化しないようにしましょう。多少時間を要しても明るく人通りが多いルートを複数使い分けることは有効です。

(ウ) 長期休暇等で家を留守にする場合は、親しい友人等に時々来てもらい、郵便物がたまらないように注意を払ってもらおうなど、留守であることを悟られないよう対策を講じましょう。

エ 日本人の被害例

(ア) 宿泊ホテル近くの屋外有料駐車場に駐車していたところ、助手席側および荷物室の窓が割られ、車内にあったカーナビゲーションシステムや衣類、キャンプ用品等が盗まれた。

(イ) タリン中央駅前の屋外有料駐車場に自動車を駐車していたところ、助手席側の窓がガラスを割られ、車内に置いていたパソコン、衣類等が入ったリュックが盗まれた。

(ウ) タリン市内の自宅地下駐車場に自動車を駐車していたところ、運転席の窓が割られ、車内のカーナビゲーションシステムが盗まれた。

(エ) タルトゥ市において宿を探していた邦人旅行者が、ゲストルーム経営者を装ったロシア系の男について行ったところ、深夜まで一室に閉じこめられ、ナイフで脅され金銭を要求され

た。

- (オ) タリン市内のレストランで、椅子の背もたれに現金・クレジットカード等を入れたハンドバッグをかけて食事をとっていたところ、ハンドバッグが盗まれた。
 - (カ) ヘルシンキータリン間のフェリー船内で旅券入りのポーチが盗まれた。
 - (キ) タリン市旧市街にて、外国人に道順を聞かれている最中にチャックの開いた鞆から財布を盗まれた。
 - (ク) タリン市旧市街にて、ツアーガイドの話を聞いている最中に背後から何者かにショルダーバッグの中のポーチを開けられ財布が盗まれた。
 - (ケ) バスのトイレを使用中、座席に置いていたウエストポーチが盗まれた。
 - (コ) レストランにて、食事中に共用のコート掛けに預けていたコートが盗まれた。
 - (サ) タリン市旧市街の hostel に宿泊中、財布から現金のみ盗まれた
 - (シ) タリン市旧市街を散策中、リュックから財布を抜き取られた。
- ※スリ・置き引きの被害は、タリン市旧市街にて同様な手口で複数報告されています。

(3) 道路交通事情と事故対策

ア 一般的な道路交通事情

- (ア) 車両は右側通行です。道路の舗装状況が悪い地域もあり、特に春先にかけて、舗装された道路でもでこぼこや陥没が見られますので、通行に際しては注意が必要です。
- (イ) 信号のない横断歩道では歩行者が優先ですが、横断の際は左右をよく確認して横断するようにして下さい。
- (ウ) ウィンカー(方向指示器)を出さずに進路変更や急な割込み等、運転マナーはあまりよくありません。危険な追い越しやスピードの出し過ぎのほか、乱暴な運転も散見されます。
- (エ) 市内の主な交通機関は、バス・トロリーバス・路面電車(トラム)・タクシーです。タクシーは個人営業も多く、料金は様々で、外国人に対し割高な料金を請求することもあります。利用する際は車両後尾右側ドアにある料金表を確認しましょう。
- (オ) 冬期は路面が凍結するとともに、午後早くに日が暮れるため、車両からは歩行者が見えにくくなることに注意する必要があります。夜間等で視界が悪い場合、歩行者はリフレクター(反射板)を身につけることが義務づけられています。装着義務を怠ると罰金を課せられることがあります。

イ 車を運転する場合の注意事項

- (ア) 特にタリン市内では一方通行が多いのが特徴です。道路標識は基本的に国際的に共通の標識を使用していますが、表示はエストニア語です。
- (イ) 走行中は昼間であっても常にヘッドライトを点灯することが義務づけられています。
- (ウ) シートベルトの着用は前部・後部座席ともに義務づけられています。
- (エ) 走行中の携帯電話の使用も禁止されています。
- (オ) 街灯のない場所でタイヤ交換等の作業を行う場合は、安全ベストを着用する必要があります。
- (カ) 冬期(11月～3月)は路面が凍結することが多く、スパイクタイヤまたはスタッドレスタイヤの着用が義務づけられています。
- (キ) 路面電車は常に優先です。路面電車が中央線寄りを走行しており、停留所が歩道にある場所では、必ず路面電車より後方で停車し、乗客の乗降が終わってドアが閉まるまで待たなければなりません。また、左折車が路面電車の進路上にあり、その進路を妨害している場合、対向車線の車は左折車に道を譲る義務があります。

(ク)信号のない横断歩道では歩行者が優先です。歩行者が横断の際は、車両は一時停止する必要があります。

ウ 交通事故対策について

(ア)事故にあった際は、被害者・加害者問わず気が動転してしまいがちですが、こうしたときにこそ冷静に対応できるよう意識して落ち着きましょう。

(イ)まず怪我人の救護にあたり、その場を離れずに警察・救急(112)に連絡します。同時に保険会社にも連絡しましょう。

(ウ)お互いの免許証および車両登録証の確認を行いましょ。

(エ)人身事故等の際の保障は、基本的に法律で加入が義務づけられている自動車保険によってまかなわれます。保険の期間が切れないよう注意して下さい。自損・盗難等にも対応するためには、任意の車両保険に加入する必要があります。

(オ)パンクやバッテリー上がりなどの路上トラブルの場合は、1888(自動車協会ロードサービス)に連絡することで、有料になりますが各種サポートを受けることが可能です。

(4)テロ・誘拐対策

エストニアにおいては、これまでのところ反政府組織の活動や国際的なテロ組織の活動は確認されておきませんが、イスラム過激派組織によるテロに関して、エストニアはアフガニスタン、イラク、マリ等への派兵実績を有しており、その危険性が全くないとは言いきれません。エストニアにおいてもイスラム教徒は存在しますが極めて少数であり、かつ穏健であることから、国内におけるイスラム過激派によるテロの脅威は低いです。しかしながら、2007年には、協定加盟国内の人の移動の自由を認めるシェンゲン協定に加盟しており、他の協定加盟国からあるいはこれらを経由して過激主義者が当国に入国してくる可能性は排除されず、最近の国際情勢を踏まえると人々が多く集まる行事等でのテロの可能性について注意する必要があります。特に最近では、日本人もイスラム過激派から直接脅威を受ける対象になっていますので、誘拐、脅迫、テロ等の不足の事態に巻き込まれることのないよう、外務省が発出する渡航情報及び報道等により最新の治安・テロ情勢等の関連情報の入手に努め、日頃から危機管理意識を持つと共に、状況に応じて適切な安全対策が講じられるよう心がけて下さい。

また、誘拐事件については、警察関係者によると、2020年にはエストニアでは発生していません。

ア 情報収集

日々のテレビ・インターネット等の情報を通じ、当地におけるテロの発生状況等について把握しましょう。当地の情勢に加え、日本国内の情勢や世界の他の地域の情勢がもたらしうる影響も考慮に入れましょう。

イ テロへの警戒

テロの発生リスクが高まった場合、テロリスト等の攻撃対象となる恐れのある施設(※1)の周辺にはなるべく近づかず、外出時にデモや集会に遭遇した場合は、巻き込まれないよう落ちて着いてすみやかにその場を離れて下さい。

※1 ソフトターゲット:教会、モスク、空港、駅、ショッピングモール、イベント会場 等

ハードターゲット:警察署、官公庁庁舎 等

ウ 誘拐への警戒

誘拐は、狙う相手に対し十分な下見(事前調査)と準備を行うのが通例とされていますので、予防のためには「日頃から日常生活をパターン化しない」、「居住地の地域にとけ込む」等に留

意することが有効です。

エ 対処方法

万が一誘拐・テロの被害者となってしまった場合は、「LUN(逃げる)」「HIDE(隠れる)」「TELL(助けを呼ぶ)」の考えを可能な限り実行し、犯人を挑発せず、救出されることを信じて冷静に行動しましょう。

4 緊急事態に備えて

大規模事故・自然災害・テロなどの緊急事態は、いつ、どこで、どのような形で起こるか予測が付きませんが、緊急事態に備えた心構えをご家族、職場で話し合い、必要な準備を進めておくことは決して無駄なことではありません。

(1) 平素の準備と心構え

ア 連絡体制の準備

(ア) 平素から家族間、職場内で緊急時の連絡方法を決めておき、確認しておきましょう。

(イ) 携帯電話や固定電話が長時間使用困難となることも考えられますので、代替の連絡手段についてあらかじめ考えておくことも重要です。

(ウ) 緊急連絡先などは、メモにして常時携帯するようして下さい。携帯のメモリーはバッテリーが有効な間しか使用することができません。

イ 情報入手先

(ア) 在留届(エストニアに3ヶ月以上滞在される方)

大使館からの緊急情報の発信、在留邦人の安否確認は、原則当館に提出された「在留届」に基づいて行います。領事サービスを提供する際の基礎にもなる貴重なデータであると共に、有事の際の緊急連絡ツールとして非常に重要ですので、エストニアに3ヶ月以上滞在される方は、必ず在留届の提出をお願いします。

登録は、ORRネット(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>)をご利用しオンラインで行って下さい。ORRネットから在留届を提出された方は変更や転出の情報をORRネット上で行うことができます。オンライン環境がない方は当館領事班までお問い合わせいただき、「在留届」(規定のフォーム)への記入の上、提出して下さい。

在留届の登録後、住所や連絡先等に変更があった場合、また、転出、帰国、その他の事由によりエストニアを去られる場合には、ORRネットにて各種手続きをお願いします。ORRネットへログインできない方及び規定のフォームにて在留届を提出された方は、当館へ来館もしくはメールにて変更の内容を連絡して下さい。

(イ) たびレジ(エストニアでの滞在期間が3ヶ月未満または、第三国へ渡航される方)

たびレジは、海外旅行や海外出張される方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡が受け取れるシステムです。別の国へ旅行や出張する際は是非登録をお願いします。

登録及び変更は、たびレジ(<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>)をご利用しオンラインで行って下さい。

(ウ) 一般公共放送

インターネット、テレビ、ラジオ等を通じて最新情報の入手に努めて下さい。なお、NHK短波ラジオ(NHKワールドラジオ日本)の最新の周波数等は、NHKワールドのウェブサイト(<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/>)から入手できます。

ウ 避難場所

- (ア) 自宅・学校・職場から避難する事態となった場合を想定して付近の避難場所についてあらかじめ確認し、家族・学校・職場間で共有しておきましょう。
- (イ) 大使館より退避あるいは避難指示がでた場合、緊急避難先は大使館（領事窓口側）としておりますが、状況によりホテル等を指定する事がありますので、大使館からの最新情報の入手に努めて下さい

エ 携行品および非常物資の準備

- (ア) エストニアでは、緊急事態が発生した場合でも物資が不足する恐れがあります。状況によっては、一定期間自宅待機を余儀なくされる可能性もあり得ます。そうした事態も見据え、非常用の食料、飲料水、乾電池等を日頃からある程度買いそろえ、保管しておくことをお勧めします。具体的なリストについては以下(3)をご参照下さい。
- (イ) 自動車を所持されている場合には、自動車での避難も見据え、平常時よりガソリンの残量に気を配り、余裕を持って給油しておくようにしましょう。

オ 海外傷害保険の加入

エストニアへの入国には海外傷害保険の加入が法令で義務づけられており、シェンゲン協定加盟国内で入院および治療費等の補償額が最低 30,000 ユーロ以上をカバーできる保険の加入が必要です。また、海外で発生する不慮の事故や病気に備えるためにも海外傷害保険は必ず加入しましょう。

(2) 緊急時の行動

緊急時には、事態の迅速・正確な把握が困難なこともあり、パニックに陥りがちです。冷静に、まず落ち着いてから行動するよう心掛けましょう。

ア 情報の把握

- (ア) 緊急時には、様々な情報が飛び交います。その中には事実に反する不正確な情報もありますので、誤った情報やデマに惑わされないよう十分ご注意下さい。
- (イ) 大規模災害時には、大使館は在留邦人の保護に万全を期すため、必要な情報の収集、情勢判断および対策の策定を行い、随時メールや HP を通じて在留邦人の方に情報を連絡しますのでご活用下さい。

イ 行動

- (ア) 緊急事態に遭遇した場合、現場からなるべく早く遠ざかる必要があります。現場では相当な混乱が予想されますので、すみやかに現場を離れ、安全を確保して下さい。
- (イ) 自身の安全を確保したら、家族や友人などの安否確認を行って下さい。

ウ 大使館への通報

- (ア) ご自身や家族または他の在留邦人の生命・身体・財産に危害が及んだ場合、または及ぶ恐れがあるときは、迅速かつ具体的にその状況を大使館にお知らせ下さい。
- (イ) 緊急事態が発生した際には、当館からも情報提供に努めますが、皆様からも自身や家族の安全や知り得た情報について、当館に通報して下さい。
- (ウ) 緊急時はお互いに助け合って対応にあたるのが大切になります。場合によっては、大使館から在留邦人の皆様に種々ご連絡することもあるかと思いますが、その際はご協力をお願いします。

(3) 緊急時に備えてのチェックリスト

各個人・家庭の状況に応じ、必要となる備蓄品を選定し保管して下さい。参考までに、日本国内における自然災害時を想定した備蓄品の数量は、災害支援物資の到着まで最低 3 日間、スーパーマーケット等における食品の物流停止期間を 1 週間と想定しています。そのため、最低 3~1 週間×人数分の食品の家庭備蓄が望ましいとされています。

パスポート、本人確認書(エストニア政府発行IDカード)

パスポートの残存有効期間は最低でも6ヶ月以上であることが望ましいとされています。パスポートは、失効する日の1年前であれば更新できますので、ご確認下さい。また、パスポートの最終頁の「所持人記載欄」も記載するようにしましょう。

現金、クレジットカード、預金通帳、有価証券等

いつでも持ち出せるように常に保管場所を確認しておきましょう。また避難が長期間にわたる可能性や国外に待避する可能性も考慮し、十分な額を用意しましょう。

自動車の整備

非常時にいつでも利用できるよう常に点検整備を怠らず、日頃からガソリン残量が十分あるよう気を配りましょう。車内に懐中電灯や地図、新聞紙等を備え置くとよいでしょう。

衣類

衣類: 行動しやすく、寒暑に耐えられ、華美でないもの

履物: 履き慣れた丈夫で行動しやすいもの

その他: 帽子、軍手、毛布等

食料品

食料品: 乾パン、缶詰、レトルト食品、粉ミルク

飲料水: ミネラルウォーター、水筒

調理器具: 簡易調理器具、固形燃料、缶切り、割り箸、プラスチック製食器 等

その他

生活維持: ラジオ、懐中電灯、乾電池、ろうそく、ライター 等

衛生管理: 生理用品、おむつ、ゴミ袋、タオル、常備薬・医療品 等

(4) 緊急時のエストニア語

エストニアでは基本的に英語が通じますが、念のため、以下のエストニア語を覚えておくとういでしょう。

警察・・・Politsei (ポリツェイ)

助けて・・・Appi! (アッピ)

どろぼう・・・Varas! (ヴァラス)

盗難に遭いました・・・Minult varastati (ミヌルト ヴァラストァティ)

病院・・・Haigla (ハイグラ)

救急車・・・Kiirabi (キイラビ)

火事・・・Tulekahju (トゥレカヒュ)

消防車・・・Tuletõrje (トゥレトリエ)

英語を話せる人はいますか?・・・Kas keegi oskab inglise keelt?

(カス ケーギ オスカブ イングリセ ケールト)

大使館に連絡して下さい・・・Palun võtke ühendust Jaapani Suursaatkonnaga

(パルン ヴォトウケ ウヘンドゥスト ヤーパニ スールサートコンナガ)

5 緊急時の連絡先(電話番号等)

(1) 緊急電話

ア 警察・消防・救急(共通) : 112

イ 自動車の故障(Autoabi、自動車協会ロードサービス) : 1888

(2) 病院

ア 北エストニア病院

名称:Põhja-Eesti Regionaalhaigla (North-Estonian Regional Hospital)

住所:J. Sütiste tee 19, 13149 Tallinn

代表電話番号:(+372)617 1300

緊急外来電話番号:(+372)617 1369

イ 東タリン中央病院

名称:Ida-Tallinna Keskhaigla (East-Tallinn Central Hospital)

住所:Ravi 18, 10138 Tallinn

代表電話番号:(+372)666 1900

緊急外来電話番号(内科系):(+372)6 207 909 または(+372)6 067 654

緊急外来電話番号(外傷系):(+372)6 207 942

(3) その他関係省庁

ア 警察・国境警備庁(滞在許可も取り扱う):(+372)612 3000

イ 観光局 :(+372)627 9770

(4) 大使館

名称:在エストニア日本国大使館(Embassy of Japan in Estonia)

住所:3rd floor, Tallinn Business Center、Harju 6, 15069 Tallinn, Estonia

代表電話番号:(+372)631 0531(月～金曜日(休館日は除く)9:00～17:45)

夜間・休日当番の電話番号:(+372)631 1674(上記以外の時間)

Fax : (+372)631 0533

E-mail:ryouji@ti.mofa.go.jp

HP:<http://www.ee.emb-japan.go.jp/jp/>

6 結語

エストニアの社会・政治情勢は概ね安定しており、治安についても比較的良好と言えます。しかしながら、海外での滞在である以上、事故や事件の当事者となった場合、言葉の問題をはじめとして、日本で起こった場合と比べて二重三重に大変な思いをすることになります。

快適な滞在は安全の上に成り立つことをご理解いただき、「万が一」に備えた安全対策に取り組んでいただければ幸いです。